

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	Confidence 自信 Communication 対話 ①学び直しによる確かな学力の育成と定着を図る。 ②コミュニケーション力を育成するため教科横断的な探究型学習を追求する。	② 主体的・対話的な学びを積極的に取り入れるとともに、生徒一人ひとりに対して丁寧な学習指導を実現することにより、生徒の思考力・判断力・表現力を培い、コミュニケーション力を育成する。	② ICTツールを積極的に活用することにより、主体的・対話的な学びを実現するとともに小中の学び直しの機会も充実させ、生徒一人ひとりの理解度に応じた学習を展開する。またTT(チームティーチング)を積極的に行い、丁寧な学習指導を実現することで、思考力・判断力・表現力を培う。	② 生徒による授業評価において、「主体的な学習活動を通じて、思考力・判断力・表現力などを高めることができた」の質問項目に対して、肯定的な評価が80%以上であったか。					
2	生徒指導・支援	Confidence 自信 Compliance 遵守 ①社会人として通用するための規範意識を育成する。 ②自己目標を達成することにより自分を肯定する力を身に付ける。 ③中学校との連携や交流から部活動や学校行事における生徒の主体的な活動の支援を図る。	① 基本的生活習慣の確立及び規範意識の向上を目指し、問題行動の抑止と未然防止に取り組む。 ② 面談等を通して個別支援の必要性を共有し継続的に支援をすすめる。	①-1 朝学習の取組により基本的生活習慣の確立のためにも登校時間を定着させる。 ①-2 校内外の巡回指導を継続して実施することにより、問題行動の抑止と未然防止をする。 ② 複数回面談を実施し、積極的に生徒理解を心掛け、必要に応じてSC、SSWにつなげるなど、継続的に支援をすすめていく。	①-1 1年間の遅刻回数が60回を超える生徒数が前年度より20%減ったか。 ①-2 問題行動発生件数が前年度より20%減ったか。 ② 面談等を通して困難等を抱える生徒を必要な支援につなげることができたか。					
3	進路指導・支援	Confidence 自信 Communication 対話 ①社会人基礎力をつけ、コミュニケーション力をベースとした人間力を培う。 ②就職、進学や外国につながりのある生徒の多様な進路に対応できるカリキュラムの追求を継続する。	① キャリア教育実践プログラム及び地域と協働した活動により、他者と円滑にコミュニケーションを図るスキルや、協力し合う力などを養うことで、より豊かな人間力を育成する。	① インターンシップやボランティア活動に参加させることで、異年齢の人々とのコミュニケーションスキルを養う。また、協力し合って目標を達成する経験を通じて、相互理解を深める。	① インターンシップやボランティア活動、地域における活動等への参加生徒への振り返りアンケートを実施し、効果検証を行う。					
4	地域等との協働	Compliance 遵守 Communication 対話 ①学校運営協議会と意見交換をしながら地域に貢献できる人材の育成を図る。また地域学校協働本部(明日楓会)と連携し、実践的な就業体験の実施など生徒のニーズに対応する。 ②連携型中高一貫校として、愛川町の教育	② 中高連携事業を地域連携にも積極的につなげて地域全体の発展・活性化を図り、国際化・多様化が進む地域を担う人材を育てる。	② - 1 中高連携事業で実施する花壇整備や防災訓練などの活動に連携生以外も参加する機会を増やし、連携生を中心とした「愛高生」全体としての活動を増やす。 ② - 2 和太鼓部の活動を中心の中学校との部活動体験、地域連携としての発表会を合同で行うなど、地域連携を進める。	② - 1 中高連携事業の活動に連携生以外の生徒も延べ50人以上参加できたか。 ② - 2 中学生の部活動体験や地域の小学生を招待した地域発表会を開催するなど、愛川高校の部活動等を地域に知つてもらう機会を設けることができたか。					

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価（月 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		力を高め、地域発展につなげる。多様性を認め、他者を敬う姿勢を構築する。								
5	学校管理 学校運営	Compliance 遵守 Communication 対話 ①心理的安全性の確保と風通しの良い職場づくりにより事故不祥事を防止し、働き方改革を推進する。 ②防災意識を高め、地域全体で子どもを守る体制作りに取り組み、安全で安心な学校環境を維持する。	① 心理的安全性の確保により、風通しの良い職場環境づくりを行い、事故不祥事を防止するとともに働き方改革を推進する。 ②防災意識を高め、地域全体で子どもを守る体制作りに取り組み、安全で安心な学校環境を維持する。	①-1 毎月の不祥事防止会議における定期的な啓発活動を通じて、職員の意識を高める。振り返りアンケートにより意識の向上について把握する。 ①-2 作業プロセスを見直してルーチンワークや重複作業を削減し、校務のDX化により、定時に退勤できるように職務の効率化を実現する。	① - 1 職員個々の意識を高めることができたか。 ① - 2 月の時間外在校等時間45時間超の教員割合を10%未満に抑えることができたか。					